

突然4億の負債を抱えました

様々な事業を通じて、お客様や地域の方に「感動」をお届けする企業体になる。この「感動イノベーション」をビジョンに、いま石川県金沢市に本社を置く株式会社宗重商店の代表として約80名のスタッフを率い仕事をしています。

当社の事業は解体事業を中心に、リサイクル事業、仮設足場・建設事業、幼児教育事業など幅広い事業を展開しています。当社が展開している10の事業にはリサイクル、ユース、リボンなど「Re」が共通していて、「再び」「再生」という意味があります。「Re」を創造することで地域に貢献し、お客様の要望にお応えし、お困りごとを解決していく。そこに私たちの存在意義があると考えています。幼児教育事業を通じて考え方や価値観を育み、マイホームの建て替えや解体、学生さんの引越越し、生前・遺品整理などで、人が生まれてから人生を全うするまでの重要な転機が必要とされる会社になりつつあると感じています。

宗重商店の始まりは昭和14年、祖父の宗守徳太郎が立ちあげ、父の徳郎が引き継ぎ、私が三代目になります。徳太郎が立ちあげた頃は今のように解体がメインではなく、古物・骨董を生業とし、その後使わなくなった建物を丸ごと買い取り、屋根瓦や柱、梁、合掌材を丁寧に生かし解体して、次の建物の建材として販売していました。なぜ祖父がそこに目をつけたのか？はつきりしたことは分からないのですが、人が嫌がるけど世の中には必要、だったら自分がやろう！という使命感の強い人だったようです。この当時は100%リサイクル、今でいえばSDGs最先端みたいなことを前からやっていた、そこから日本が高度経済成長し、大量生産・大量消費時代が変わっていく中で解体専門業者に変化をしいたと聞

いています。

父が引き継ぎ、富山・福井・滋賀と営業拠点をづくり成長拡大を続け、社員数も増えていきました。そんな中、大事件が起こりました。父は産業廃棄物処理費をきちんと払っていたのですが、依頼先の請負業者さんが全く処理していないという産業廃棄物詐欺にあつたのです。その請負業者さんが倒産し、そうなるのと排出事業者の責任となる。一度支払っているのにも関わらず、排出事業者としても一度責任を負わされ、突然4億の負債を抱えました。とんでもない量の廃棄物を処理しないといけないだけでなく、会社名も新聞に大きく載り、新たな許可や仕事を受けることができない状況に陥りました。父は精神的疾患を患い、仕事を続けることが難しい状況に追い込まれます。私が会社に戻つたのがそんな最悪のタイミングでした。

私は家業を継ぐつもりは一切なく、父から「継ぎなさい」とは一度も言われたことはありません。仕事柄がらが悪く見える人が多い業界で、一人息子である私にそんな茨の道を進ませたくない、というのが父の心情だったのでしょう。だから私も建築系に進むこともなく、経済学部を選び、神戸の大学に進学しました。家業を継ぐことはなくても、一人息子なので将来的には金沢に戻らないといけない。だから外の世界をみるために、一度は金沢を出たかったのです。周りは東京に行く人が多かったのですが、私は関西を選んだのですが理由は必ずしも「フリーリング」笑。関西のほうが合うんじゃないか、面白いんじゃないかという感覚的なものでしたが、直感通りすごく充実した学生生活を送りました。

大学卒業後は大和という地元の百貨店に入社しました。そもそも流通業に興味があったのと、ちょうど当時「規制緩和」と小泉純一郎首相が盛んに言っていた時期なので、そこから競争が激化する業界は何かと考えたときに、デパートが面白そうだと感じたのです。面接が進んでいくと、同期になりそうな人間の

最初にとんでもない苦難があったのは 今から考えれば経営者として良いスタート

